

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

恩 師 A 先 生

太 田 幹 夫

(なんば太田クリニック 院長)

A先生は産業医科大学精神神経科の名誉教授、御歳80歳。先生は語学の達人、文献探しの名人、論文作成の才人、精神科臨床の名医、学者の鑑、超合理主義者、個人主義者、天才、奇人、変人などと評されています。私が精神科医として成長する過程でたいへんお世話になり、ご指導頂き17年間共に仕事をさせて頂いた恩師です。

私が医師になって初めて記載したカルテの専門用語の間違いを添削して頂いたことが先生との初めての出会いでした。先生の前評判は、飛び抜けて優秀な精神科医であり研究者であり臨床家として周囲から敬意を持たれている一方、気難しい変わった人、俗人に塗れず、凡人にはついて行けない異星人というネガティブな噂もあり、評価が分かれていました。駆け出しの研修医であった私は無謀にも先生に質問攻めをして煩わせましたが、優しく逐一丁寧に応対して頂きました。やがて先生の知識の源泉である図書館に同行し、文献検索の手ほどきを受けました。当時はまだ手作業で検索カードを繰りながら引用文献から孫引きする方法で目的の論文を探していました。1日中図書館の中を右往左往して探し出した文献を自慢気に持参すると、先生の袖机から同じ文献が手際よく引き出され、とて

も敵わないと思い知らされました。

私が助手になった頃に、好い論文がありましたと見せて頂いたのが見たことのない言語であったので、これはロシア語ですかと尋ねると、先生曰くポーランド語は読めますかと。語学の達人である先生は大学生のときから英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語の小説を読んでおられたと聞いていたが……。後日談で、先生がロンドン大学モーズレイ病院に国費留学されていたときの恋人がポーランド人女性であったと聞かされました。

先生は英国仕込みの徹底した個人主義者。他人のプライバシーには全く関心を示さず、教授の権力を行使して医局員を管理や支配するようなことには一切無縁で、老若男女平等に個人の人格と良識を尊重するという立場で常に一定の距離を持って接しておられた。また先生は日頃からきわめて質素な生活を心がけ、製薬会社との関係でも厳しく律し、いわゆるひも付きの講演や接待には加わず、旺盛な学問的興味と学者としての名誉のみを追求されていました。

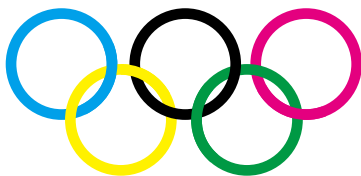
先生の研究のほとんどは臨床を対象としており、毎日の診療の中でいつの間にかデータが収集され、アイデアがひらめくと3日後には論文の粗筋が出来上がっています。私のような怠惰な精神科医にも意見を求め、外国雑誌に投稿するまで1ヶ月とかからない超早業



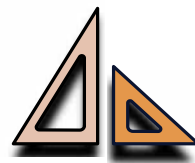
である。投稿論文が採用され別冊が贈られてくると子供のように喜々として医局員に配られる姿が何とも微笑ましい。論文の殆どが英文ゆえに国内の知名度は高くないが、小児精神医学や発達行動遺伝学の分野では国際的によく知られており、しばしば国際学会の演者に招聘されていました。

先生の欠点は日本語があまり上手でないことと日本的常識が通用しないことです。日本語の言葉に詰まると「あの一・・・」「その一・・・」「つまり・・・」という言葉が連発されます。ところが不思議なことに英語になるとよどみなく、キングスイングリッシュが迸るように出てきます。何より英国を愛する先生は英国人になりきっておられます。

今や先生とは20年間離れ離れになっていますが、そんな人間味あふれる天才に敬愛の念がやみません。



理事会報告



◎平成25年度1月定例理事会

日 時 平成26年1月24日(金)

午後8時～

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 浪速区保健福祉センターが行う「特定健康診査」受診勧奨およびアンケートの実施について <佐久間会長>
保健福祉センターより標記受診勧奨ポスターの配布およびアンケートを実施したいとの申し出があった。アンケートの説明は、特定健康診査実施医療機関へ直接伺うとのことであった。

協議の結果、了承。

2. 平成26年度以降の難波元町小学校眼科校医の変更と塩草小学校と立葉小学校の合併に伴う内科校医について

<澤井副会長>

平成26年度からの各校医は次のとおり
に決定。

難波乙町小学校 眼科校医 山尾信吾医師
塩草立葉小学校 内科校医 徳田好勇医師
耳鼻科校医 中村泰久医師
眼科校医 吉野成泰医師

3. 60周年記念式典・祝賀会での(株)サビへの謝礼について <澤井副会長>
当日、役員の集合写真や式典、祝賀会のカメラ撮影、受付などを手伝ってもらったことに対する謝礼をしたい。

協議の結果、了承。

4. 予算委員会の日程について

＜澤井副会長＞

標記日程を決めたい。

協議の結果、2月21日〈金〉午後8時に決定。

5. 本会入会希望者の可否について

＜有田副会長＞

資料のとおり、入会の申込があった。浪速区内の医療機関に所属されていない医師なので、入会の可否について協議願いたい。

協議の結果、浪速区内の医療機関に所属することを条件に入会を認めることとなった。

6. 有料老人ホーム「エルカーサ富永」のパンフレット（別添）の内容について

＜徳田理事＞

別添パンフレットの内容について協議願いたい。

協議の結果、記載内容について再度確認することとなった。

7. 浪速区三師会（2月22日〈土〉）への参加者について

＜徳田理事＞

標記三師会への参加者を決めたい。

協議の結果、佐久間会長、澤井副会長、有田副会長、橋村理事、徳田理事、木田理事、竹中監事の7名に決定。

8. 郡市区医師会学校保健担当理事連絡協議会（第2回2/26・第3回3/14）への出席者について

＜徳田理事＞

標記出席者を決めたい。

協議の結果、次のとおりに決定。

2月26日〈水〉澤井副会長、落合理事
3月14日〈金〉なし

9. その他

(1) 本会「改定点数説明会」の開催日程について

＜橋村理事＞

標記日程を決めたい。

協議の結果、次のとおりとなった。

3月26日〈水〉午後2時30分

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

(1月24日〈金〉) ＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷会長挨拶

▷報告事項

(1) 平成26年度診療報酬改定にかかる諮問概要とパブリックコメントの件

▷連絡事項

(1) 平成26年度医療機関ならびに勤務医「医師賠償責任保険」団体契約更新の件

(2) 新型インフルエンザ等対策特別措置法及び特定接種にかかる登録事務説明会の件

(3) 2月度行事・会合日程の件

(4) その他

▷協議

▷閉会

(詳細 略)

2. 大阪市医師会連合会委員会について

(1月20日〈月〉) ＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷連絡事項

(1) 「大阪市国保請求事務委託料」および「大阪市国保保健施設事業委託費」廃止にともなう平成25年度の対応の件

(2) 平成25年度大阪市各種がん検診事業評価実施の件

(3) 平成25年度大阪市がん検診にかかる年度末の取扱い周知の件

(4) 大阪市立保育所嘱託医委嘱手続きの件

(5) 平成26年度特定健診・保健指導集合

- 契約にかかる受託業務内容確認調査
の件
(6) 新型インフルエンザ等対策特別措置法
及び特定接種にかかる登録事務説明会
の件
(7) その他
(詳細 略)

3. 府医新春互礼会について (1月5日<日>)
＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

- ▷開会
- ▷大阪府医師会長挨拶
- ▷来賓祝辞
- ▷祝宴
- ▷閉会

(詳細 略)

4. 歯科医師会新年互礼会について
(1月11日<土>) ＜佐久間会長＞
天王殿で午後6時より開催され、盛会で
あった。

5. 浪速区地域支援調整チーム地域ケア会議
について
(1月16日<土>) ＜橋村理事＞

次第は次のとおり。

- ▷随時地域ケア会議の報告
- ▷「包括ブランチアンケート」と「総合
相談集計」から見えてくるもの
(詳細 略)

6. 60周年記念式典・祝賀会について
(1月18日<土>) ＜徳田理事＞

スイスホテル南海大阪にて午後5時より
開催した。

次第は次のとおり。

- ▷記念式典
- (1) 開会の辞
- (2) 挨拶
- (3) 来賓祝辞
- (4) 感謝状贈呈
- ▷記念祝賀会

- (1) 開宴の辞
- (2) 来賓祝辞
- (3) 新入会員紹介
- (4) 乾杯
- (5) 祝宴
- (6) 閉宴の辞

なお出席者は、来賓 42 名 役員 19 名
会員 29 名 同伴 15 名 事務 2 名 速記
1 名の 108 名であった。

7. 郡市区医師会医業経営担当理事連絡協議会
(税務説明会) について

(1月23日<木>) ＜木田理事＞

次第は次のとおり。

- ▷開会
- ▷説明

(1) 「平成 25 年分の確定申告の留意点等に
ついて」

大阪国税局課税第 1 部個人課税課課長
補佐 一瀬圭子

(2) 「平成 25 年分の確定申告ならびに諸情
勢について」

大阪府医師会理事 久禮文雄

▷その他

▷閉会

(詳細 略)

8. 大阪警察病院地域医療支援病院運営委員
会について

(1月23日<木>) ＜金田理事＞

次第は次のとおり。

- ▷開会のご挨拶
- ▷議題

- (1) 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率
- (2) 地域医療連携センター利用状況
- (3) 紹介元・逆紹介先医療機関リスト
- (4) その他

▷閉会のご挨拶

(詳細 略)

9. 第 48 回病診連携委員会について

(11月25日<月>) ＜金田理事＞

次第は次のとおり。

-
- ▷第 47 回病診連携委員会報告
 - ▷ブルーカード事例検討等報告について
 - ▷病診連携委員会のアンケート結果について
 - ▷連携病院のVPNシステムの導入状況について
 - ▷ブルーカード事務局準備室の廃止について
 - ▷ブルーカード、中止報告書、使用状況報告書の変更について

 - ▷ブルーカードの発行時の承諾書について
 - ▷トータル医療ネットワークの報告について
 - ▷その他

(詳細 略)

10. その他
なし。

次回理事会

平成 26 年 2 月 28 日〈金〉 午後 8 時～



The 60th anniversary

庶務担当理事 徳田 好勇

平成 26 年 1 月 18 日（土曜日）午後 5 時から
スイスホテル南海大阪において、ご来賓 42
名、会員 48 名、会員家族 15 名、事務局 2 名
の計 107 名の出席により、浪速区医師会 60
周年記念式典が開催されました。佐久間会
長の挨拶に始まり、ご来賓からご祝辞をい

ただき、特別功労会員および地域に貢献され
た会員に感謝状を贈呈しました。午後 6 時か
らは長谷川浪速区歯科医師会長の乾杯のご発
声で祝賀会が開演しました。本年も洋食のフ
ルコースメニューが用意されました。アトラ
クションとして、リピート山中さんの指導に
よりロコモ体操をしました。出席者の間で各
テーブルを越えて会話が弾み、予定の 3 時間
がすぐに過ぎました。最後に澤井副会長から
閉会の挨拶があり、お開きとなりました。





3月度学術講演会のお知らせ

3月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：平成26年3月29日(土)

午後3時～5時

場所：一般社団法人浪速区医師会 会議室

演題：「電気の流れて理解する心電図 その5」

講師：国立循環器病研究センター

循環動態制御部

室長 高木 洋 先生

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。

浪速区医師会 活動の伝言板

平成26年3月の各業務の出務予定は次のとおりです。ご協力のほどよろしく願いいたします。

三 歳 児 健 診

●保健福祉センター

3月27日(木)午後1時40分～3時30分

小児科 愛染橋病院

眼 科 山尾 信吾

耳鼻科 中村 泰久

B C G 接 種

●保健福祉センター

3月20日(木) 午後2時～3時30分

工藤俊次郎・北村 栄作

安心・安全のドクターズバンク “いししん” ローン案内

“いししん”は、大阪府医師会員のための金融機関です。
ご融資を通じてドクターの暮らしと診療所経営をサポートいたします。



住宅リフォームローン

無担保型ローン

限度額

期間5年以内

1,000万円 年1.80%

(固定金利)



診療所リフォームローン 医療機械購入ローン

無担保型ローン

限度額

期間5年以内

1,000万円 年1.40%

(固定金利)



オートローン

無担保型ローン

限度額

期間7年以内

1,000万円 年1.80%

(固定金利)



教育ローン

無担保型ローン

限度額

期間10年以内

1,000万円 年2.475%

(変動金利)

※表示金利は平成26年2月にお借入れいただく場合の適用金利です。お申込み時点ではなく、実際にお借入れいただく日の金利が適用されます。

上記以外のローン商品も取り揃えております
詳しくは本店融資課まで(担当者による訪問も可能です)

TEL 06-6762-7381
<http://www.odcu.co.jp/>

大阪府医師信用組合

急病診療所出務

●中央急病診療所

3月1日(土) 深夜 22:00～30:00

小池 洋志

3月21日(金) 準夜 17:00～22:00

福永 真也・松崎 智彦

浪速区医師会クラブ活動案内

各クラブ活動は下記日程で行っております。
多数のみなさま方の参加をお待ちしております。
(ときに時間変更される場合もありますので、各部代表まで連絡をお願いいたします。)

囲碁部 毎月第1・3・5(土)
(川田信) pm 5:00～



あとがき

S.K.

認知症

高齢化社会のさらなる進行により、認知症の重要性がますます強調されている。認知症は誰もがいつ発症しても不思議ではない病気である。厚生労働省研究班の推計によれば、2012年時点で認知症高齢者は、軽度者を含め462万人に上る。予備軍である軽度認知障害(MCI)の400万人を加えれば、65才以上の4人に1人が該当することになる。高齢化が急速に進み患者数はうなぎ昇りに増える。患者の激増を食い止めることができなければ、日本社会は大きく混乱する。認知症対策を国家戦略として打ち立て、官民を挙げて解決に乗り出すことが急がれる。取り組むべき課題として、まず治療法の確立であるが根治できる薬物療法は今のところまだ存在しない。次に患者の数をできる限り減らす努力も怠らないで予防法の開発を進めることである。

高血圧や糖尿病などの生活習慣病が血管性認知症のみならず、アルツハイマー型認知症(AD)の発症・進行に関わるのが最近の研究で明らかになってきた。ADの修正可能な



危険因子として糖尿病、高血圧症の他肥満、喫煙、低身体活動、抑うつ等が挙げられているが、これらはすべて動脈硬化の危険因子でもある。報告によっては脂質異常症、高齢期の高血圧、動脈硬化危険因子の集積などもADの危険因子として挙げられ、総括すると血管性危険因子がADに関与することを示唆している。生活習慣病が血管性認知症の原因によることは理解できるが、なぜADにつながるのであろうか？最近は機序の解明が進み実験レベルでは、血管障害ないし動脈硬化が β アミロイド蓄積に寄与することが分かってきた。臨床研究でも高血圧あるいは血管硬化度の良い指標である脈圧がPETを用いて評価した脳の β アミロイド蓄積と関連することが報告されている。また糖尿病では糖化タンパクや微小血管障害、 β アミロイド分解にも働くインスリン分解酵素の作用不足など、多因子が関与すると云われている。しかしこれらの多くは動物実験の段階であり臨床的意義の解析が今後必要である。

生活習慣病の治療により認知症、特にADを予防できるかどうかに世界が注目しているが、認知症をエンドポイントとした生活習慣病の介入研究はほとんど行われておらず今後の課題である。降圧療法により認知症発症が約13%減少したことより降圧薬に認知症予防効果が期待できそうであるが管理目標血圧を明確にした研究はない。糖尿病については著明な高血糖、低血糖、血糖変動が大きいことが認知症発症あるいは認知機能障害の進行に寄与することが分かっているのみで、どの程度の管理がよいかは不明である。脂質異常症については心血管疾患を一次エンドポイントとした介入試験でスタチンによる認知機能改善効果を認めず、認知症発症予防効果も不明である。

一方すでに発症している患者や家族へのサポート強化も急がれる。特別養護老人ホームなどの施設が不足する一方で、一人暮らしの高齢者や高齢者同志で介護し合う老老介護は増えている。さらに介護する側もされる側も認知症という認知介護という言葉まで登場し

ている。40～50代が親の介護のため離職するケースも目立つ。患者と家族を地域全体で支援する態勢の構築に全力で取り組む必要がある。在宅介護へのシフトを急ぐ厚労省は平成25年、5ヶ年計画「オレンジプラン」をスタートさせ、早期診断のための医療機関を整備したり、看護師らによる初期集中支援チームが自宅を訪れ、相談に応じたりするというものである。しかし専門医や症状を十分理解してケアできる介護職が足りない。

認知症は患者のプライドを保ちながら、さりげなく支えることがポイントとされる。家族の介護疲れの悪循環を断ち切り、患者が住みなれた場所で暮らせるようにするには、行政や医療機関の支援態勢の整備はもちろん、多くの人が患者への接し方を知ることが大切である。



目次	ページ
巻頭言	
恩師 A 先生	太田 幹夫 1
理事会報告（1月開催）	2
創立 60 周年記念式典・祝賀会	
	徳田 好勇 6
3 月度学術講演会のお知らせ	8
浪速区医師会活動の伝言板	8
あとがき	9

【区医だより】

発行者 佐久間靖博
 編集者 中村泰久 橋村直隆
 印刷所 株式会社 サ ビ